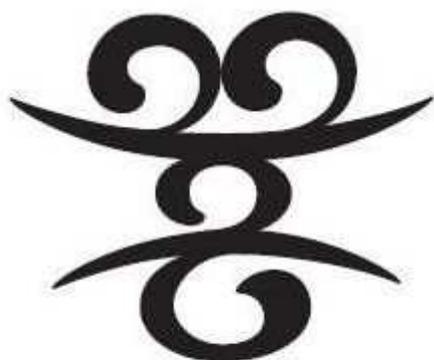


愛知県立芸術大学 F D 活動報告書

令和 2 年度



愛 知 県 立 芸 術 大 学
芸 術 教 育 ・ 学 生 支 援 セ ン タ ー

目 次

第1章 FD 活動報告書

1-1 美術学部／美術研究科 FD 活動報告書 …………… 2

- 日本画 ／ 日本画
- 油画 ／ 油画・版画
- 彫刻 ／ 彫刻
- 芸術学 ／ 芸術学
- デザイン ／ デザイン
- 陶磁 ／ 陶磁

1-2 音楽学部／音楽研究科 FD 活動報告書 …………… 7

- 作曲（作曲） ／ 作曲
- 作曲（音楽学） ／ 音楽学
- 声楽 ／ 声楽
- 器楽（ピアノ） ／ 鍵盤楽器
- 器楽（弦楽器） ／ 弦楽器
- 器楽（管打楽器） ／ 管楽器、打楽器

第2章 授業評価アンケート

概要 …………… 10

実施授業一覧

第 1 章 専攻 F D 活動報告書

美術学部・美術研究科

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
日本画	1 授業評価アンケートの実施	日本画実技Ⅰ～Ⅳの実習で下記質問事項のアンケートを実施(前期・後期) 1.どの程度出席したか 2.意欲的に取り組めたか 3.授業内容への興味関心が高まったか 4.「シラバス」は授業への取組みに役に立ったか 5.授業時間は十分だと感じたか 6.教員の話し方、話すスピードは適切だったか 7.教員とコミュニケーションはとれていたか 8.現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか 9.教室・設備については適切だったか 10.専門能力向上に役立ったか 11.総合的に評価すると良い授業だと思ったか 12.良かった点・改善点・要望点等の自由記述	下記の事項について、問題点を客観的に把握するため ・シラバスと授業内容の相互改善 ・教員・学生相互の能力向上 ・教育環境の質的向上	アンケート結果から見えるもの ・個々の学生による自己評価は客観性に富み、向上への意欲が見られる。一方教員への要望では目立った記述はみられないが、制作場所などの環境に配慮する知見が得られた
	2 専攻科会議の実施	原則、毎週木曜日の昼食時を(ブラウンバッグ・ミーティング)とし、案件がある場合、事前に議題を準備、効果的な会議とした	下記の事項について、情報を共有し、対応を協議するため ・課題の進捗状況	教員相互による効果的な意見提示が行われた
	3 茶話会の実施	原則半期に一度、空き教室を使用し、学部・大学院各学年の学生代表と教員全員による懇談会を実施	通常とは違った雰囲気の中で、出来る限り学生の本音を引き出し、教員の対応や教育環境の改善に繋げていく	学生各個人からの、授業に対する思いや問題点など一定の意見を聴取することに成功している
	4 外部講師による講座の随時開催	下記の視点から課題を把握し、日本画の学びに厚みをつけるため、外部講師を招き、特別講座を実施している ・日本画材料・保存修復の視点 ・造形基礎の視点 ・社会と日本画の接点と位置付けの視点	日本画の基礎・考え方の視野を広げ、学びを深める	各講座とも好評であり、学生の積極的な参加態度が見られる。学生の多様なニーズに応えるためにも当面継続することを考えている
油画	1 専攻会議の実施とカリキュラム改善	・通常専攻会議は毎週水曜日13:30-15:00に実施。 ・出席者: 油画専攻常勤教員12名、教育研究指導員(助手長1名)	・授業内容に関する情報共有、意見交換、改善。 ・より良い教育環境や理念、アドミッションポリシー作成への基盤づくり。 ・コロナ禍における授業運営の方法、方針の議論。	・感染予防を前提とし、講評方法をはじめとした授業運営など慎重に議論を重ねた。変化する状況を踏まえながら考えられる最善の方法で対面授業を実現させた。 ・授業内容に関しては、前年度の授業評価アンケート結果を踏まえ、より良い日程や内容になるように油画専攻全教員で協議し、改善をおこなっている。 ・長寿命化改修工事の具体的な方針とまとめを行った。学生の1名あたりの面積改善などは専攻だけでは解決できない問題であり、引き続き全学施設整備委員会などと連携を取りつつ協議することとした。 ・受験生の人数と質を確保するために、学部入試の出題方法や内容について、検討と協議を重ねながら検証している。 ・入試広報活動、大学案内に掲載する内容について、定期的に協議を重ねている。 ・オープンキャンパスを、より魅力的に情報発信できるように、個別面談や作品展示などきめ細やかな対応を検討した。

美術				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
油 画	2	授業評価アンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ■ 油画実技 I ～IV 油画特別演習 I ～IVの8項目について実施した。(前期、後期末) ■ 受講した学生についての質問内容 1.出席率。 2.意欲的に取り組めたか。 3.受講後、興味関心が高まったか。 ■ 授業について質問内容 4.授業時間は十分だったか。 5.教員の話方、話すスピードは適切だったか。 6.教員とコミュニケーションはとれたか。 7.現在の力量に合った、適切な指導を受けられたか。 8.教室・設備については適切だったか。 9.専門能力向上に役立ったか。 10.授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いましたが。 <p>* 学生が特に良かったと判断した点、要望などを自由記述。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善。 ・授業内容の向上。 ・学生の専門能力の向上と成果。 ・教員の対応能力の向上。 ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート結果 ・アンケート1, 2, 3, 5, 6, 7, 9, 10は、各学年とも高評価であった。 ・アンケート4の授業時間については、コロナ対策によって前期開始時期が遅れたことと、土曜日・日曜日のアトリエ使用、平日時間外のアトリエ使用が制限されたこともあり、十分ではないと感じる学生が多かった。 ・アンケート9教室、施設についてのアンケート結果が毎年非常に悪い。アトリエの狭さや空調の不備などが多数列記されている。特に本年度は、感染予防の観点から行われた換気によって室内の暖房状況は十分に機能しにくかった。 ■ 自由記述より学生が特に良かったと判断している点 ・教員と個別対話ができることで、作品制作についてしっかりと話すことができる。 ・2年次以降では授業を自分の考えで選択できること。 ・特別演習では、様々な分野の作家やギャラリストから話を聞くことができる。 ■ 改善と要望点 ・「アトリエが狭い」「暑い(寒い)」「WiFiがない」など、改善を求める回答が多数あり、アトリエ環境の早期改善が必要である。
	3	学生との意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> ・教員と学生との信頼関係を維持するため、毎月1回、12:05-12:30に学部各学年の代表2名ずつ計8名に集まってもらい、教員との意見交換会を実施している。 ・意見交換会の内容は授業関連にとどめず、施設要望、学校生活の様子など幅広く意見交換をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント防止。 ・施設の不備調査と改善。 ・学生間コミュニケーション調査。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、アトリエの狭さや空調へ不満と設備改善要求が多かった。 ・アトリエ使用時間の延長要望や夏場の空調利用要望があった。 ・各学年代表者が同じ場所に集うことで、同学年だけでなく上下間の交流も生じた。 ・学生と教員の間でのコミュニケーションは適切に維持され、各教員は、学生要望にできるだけ応えられるよう、関係する委員会や部署などに要望や改善を年間を通じて報告した。
	4	作品写真アルバムの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・学生が授業で制作した作品は、すべてデジタル撮影し、油画サーバーで管理している。 ・紙媒体だけでなく、iPadを用いてデジタルアーカイブしたデータを教員が閲覧できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等美術教育としての資料のアーカイブ化。 ・新たな講座内容や教育研究教材を開発するための資料。 ・講座内容改善のための資料。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体からデジタル中心に移行したことにより、学生の作品を面談や講評時に確認できるので非常に有用である。 ・デジタル化したことによって、データの保管や二重三重のバックアップ、ウィルス対策などについて、対策が必要となっている。
	5	写真講座、文章講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・写真講座は2年次に実施し、作品写真アルバムを作成するために基本的な絵画作品の撮影技術などを教える。 ・文章講座は3年次に実施し、自作について語れる文章能力を身につけるために実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際舞台でも通用するプレゼンテーション用の作品ファイルの作成。 ・自作や美術作品等を語るための文章能力とコミュニケーション能力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真講座と文章講座を通じて、ポートフォリオやステートメントを作成する学生が増加し、内容についても質が向上している。 ・大学卒業後、作家活動や社会活動をする上でも、プレゼンテーション能力は非常に重要であるため、今後も講座を継続していく。
	6	学生ファイルの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・学生ファイルは、入学時から作成し、1年次と2年次の各講座や3年次と4年次のチュートリアル授業や卒業制作作品などについて学生自身がその内容や成果を記録しておくものである。 ・在学生全員分は油画専攻教室のキャビネットに保管しており、常に教員や学生などが閲覧できる。作品写真アルバムと合わせて利用している。 ・卒業後の保管期間は5年間としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の作品制作の変遷を、年を追って確認できる。 ・学生は問題意識を持って授業に臨み、次の作品制作に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ファイルは学生本人だけでなく、常勤教員や非常勤講師にとっても、作品の変遷を考察、検証できるため有用な資料となっている。
	7	アトリエ・教室等の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・油画専攻学生にとって、作品制作が最も重要な勉強方法となる。そのため、アトリエ環境は、そのまま教育研究成果や有意義な講習会や討論会などの指導にも影響を与える。しかし、現状の施設状況では、「制作スペースの狭さ」「冷暖房機能不足」「自然環境の整備不足による学生生活の安全性が守られていない」「WiFiなどのデジタル関連の未整備」「水場環境の不備」という大きな問題点がある。この問題についての解決策を随時、油画専攻で協議し、各種委員会などで報告している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻の中で最も1人当たりの制作環境面積が少ない油画学生に対する改善と拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を通じて、アトリエの狭さと設備に対する不満が、アンケート結果や学生との意見交換会などから非常に大きいことが、あらためてわかった。 ・現状施設の重点的改善点 1.制作スペースの確保 2.冷暖房環境の機能強化 3.利用時間の見直し 4.電気容量不足の改善 5.学内WiFi環境の構築 6.水場環境の改善 7.自然環境の整備と安全性確保 上記の重点的改善点は油画専攻だけでは解決できないため、全学的に考えていく必要がある。

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
彫刻	1 授業評価アンケートの実施	彫刻実技Ⅰ～Ⅳの授業評価アンケートを実施した。	授業に対する学生からの率直な意見を収集し、今後の授業運営に役立てる。	各教員が担当する授業ごとにアンケートを実施し、可能な範囲でアンケート結果を専攻内で共有した。このことにより、専攻全体でのカリキュラムの課題が見えるようになり、問題を共有することができた。
	2 専攻会議の実施	隔週水曜日の13時より、2時間程度実施した。 以下の項目の議題の検討および報告・情報共有を行った。 ①学生・授業関係 ②専攻運営 ③各種委員会	大学運営に関して情報を共有し、諸課題について協議する。学生の状況を把握し、必要な対応をする。	専攻会議の運営は今年度も引き続き円滑に進めることができた。検討が必要な事柄がある場合には、教員間でよく話し合いをした。専攻会議を通じた教員間のコミュニケーションは大変良好であった。
	3 将来計画会議の実施	必要に応じて隔週の水曜日に彫刻専攻会議に続けて実施した。中長期的な視点から今後の彫刻専攻のあり方や方向性について話し合った。	彫刻専攻の校舎移転に伴うカリキュラムの検討や人員の配置など、彫刻専攻の中期計画について話し合う。	彫刻専攻の校舎移転を見据えた中期的な将来計画についてタイムラインを示し、共通の認識を持つことができた。
	4 学生の研究報告書の活用	各授業毎に学生は研究報告書を提出し、これを専攻事務室でファイリングし教員が閲覧できるようにした。研究報告書には学生の作品の写真、研究テーマ、タイトル、研究の概要や成果が記述されている。	学生が作成した各授業毎の研究報告書を専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、4年間を通じた学生の取り組みや学習状況を把握する。	研究報告書の作成を通じて、学生は制作過程や制作意図について言葉で伝える力を身につけている。研究報告書は、授業中や講評会ではうまく伝えられなかったことを後から教員に文章で伝えるためのツールにもなっている。教員は研究報告書を通して、学生の授業における理解度を知ることもできた。
	5 学生カルテの活用	学生の学習状況その他特記事項について教員がカルテに記入し、専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにした。	各授業の担当教員が記入したカルテを専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、学生の学習状況を把握する。	カルテは、欠席が多くなったり何か気にかけるべきことがあったりする学生について、過去に遡って学生の学習状況を確認することができるものである。学生の状況について、教員間での情報の共有に役立てることができた。
	6 ゲスト講師による講義の実施	教員が推薦する外部講師による講義である「彫刻論」を年に2回実施した。これとは別に、オンラインによる特別講義も実施した。	専任教員とは異なる専門領域の講師等を招聘することで、専門的知識の補充を図り、教育研究に役立てる。	彫刻論講師は、青木千絵講師および三木サチコ講師を招聘した。学生と教員双方にとって貴重な内容だった。また今後の授業運営の検討にも役立つ多くの参考になる話を聞くこともできた。また特別講義として、今井紫緒講師による「3Dデジタル技術の立体造形分野における応用」をオンラインで実施した。他専攻の学生も数人参加し、大変有意義な内容であった。
	7 ゲスト講師による講評会の実施	ゲスト講師による講評会を実施した。院生展の会期中に1名、卒業修了制作展の会期中に3名の講師による講評会を行った。	客員教授あるいは外部から招聘する特別講師による講評会を行うことで、客観的視点に基づいた講評から学ぶ。	客員教授の金井直教授の他に、卒業特別講評会には三重大学の奥田真澄准教授、栗木義夫講師を招聘することができた。客観的な視点による講評から多くを学ぶことができただけでなく、教育の在り方についての意見交換も行うことができた。
	8 客員教授による特別講義の実施	金井直客員教授による特別講義を年間3回行った。	近現代彫刻史とその主要なテーマについて学びながら、彫刻領域の諸課題について、学生と教員が共に考える。	下記の日程と内容による金井客員教授の講義が行われた。コロナ禍にあっても、対面での講義を行うことができた。 学生の中にはこれらの講義から得たことを参照しながら作品制作を行っている者もあり、とても有意義のある講義であることが確認された。 第1回 7月16日(木) 10:00-12:00 彫刻の色 第2回 10月15日(木) 10:00-12:00 彫刻と触覚 第3回 1月21日(木) 10:00-12:00 人体彫刻の歴史
芸術学	1 授業評価アンケートの実施	前期・後期それぞれ授業評価アンケートを以下の方法で実施した。 (対面授業の場合)前期/後期の講義最終回に、学生へユニバでアンケートに回答してもらい、結果を取りまとめた。 (オンライン授業の場合)ユニバを通して、学務課から学生あてにオンライン授業のアンケートを掲示、回収した。FD委員会にて情報を共有した。	客観的に評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	今年度は前期途中まで全ての講義がオンラインで行われ、西洋美術史・現代アートの概説・特講は対面講義に切り替わったが、美学・日本美術史の概説・特講はオンラインで行われた。西洋美術史も後期はオンラインとなった。そのため例年のように個別の科目ごとのアンケート回収は少なく、オンライン授業用のアンケートで一括して回収された。オンラインであっても学生からの評価は決して低くはなく、むしろ今後積極的に活用してほしいという要望も多かった。遠隔授業のやり方は手探りだったが、学生たちも懸命に取り組んだ様子が見え、なほ、大学指定のLMSであるユニバの機能改善を求める声が多かった。
	2 専攻会議の実施	原則として月2回程度、木曜日に1-2時間開催する。FDに関しては、教員・学生ともに少人数による教育の利点を活かし、学生一人一人の学習状況等を教員間で共有して必要なサポートについて検討する。あわせて、専攻の今後の方向性を視野にいれながら、カリキュラム内容を検討する。	専攻としての目指すべき方向性を確認しながらカリキュラムを実施し、学生の学習環境等を支援する。	登校禁止期間は実施できず、業務はメールでのやりとりとなった。後期は対面で、短時間ながら各回適切に行なった。教員の間で学生の状況について情報を共有し、それぞれの担当授業で必要な対応をした。学生に支援が必要な場合は、保健室や学習支援コーディネーター、カウンセラーを紹介した。また、登校が難しい学生について、保健室・学生支援係と専攻教員で連携し、対応に当たった。開催頻度については、教員間の連携をより密にするため、来年度は週1回程度の開催を検討している。
	3 療養休職中教員のバックアップ	教員の一名が療養のため後期(10-3月)休職に入った。その間、非常勤の教員を配備するなど指導体制を整えた。	教育の質の維持。	同一専門領域の非常勤の教員が講義と学生の研究指導を担当した。他の教員も可能な指導を行い、さらに学内の諸委員会の代行を務めた。これらにより学生の指導や学内運営上の空白を埋めることができた。

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
芸術学	4 遠隔授業の実施	新型コロナウイルス感染症のため、前期は4月から登校禁止となり、5月から6月半ばまでは遠隔授業を行った。	教育の質の維持。	遠隔授業はユニバを中心に、適宜Teamsを使用した。教科書のほか、一般に公開されている動画の視聴など、授業内容に応じて様々な教材を併用し、教育の質を維持することに努めた。教員が独自のテキストを執筆したり、解説の音声配信したりとそれぞれ工夫を凝らした。6月半ばからは、対面授業に切り替えた科目と、遠隔授業を継続した科目がある。今後はレポートの提出をオンライン上で可能にするなど、対面授業が全面的に再開されてもオンラインの利点は取り入れていきたい。
	5 オンラインによる授業のサポート	「芸術学総合研究」や「西洋美術史研究」「日本美術史研究」などの科目で、非常事態宣言下、万が一登校禁止となった場合でも継続することができるよう、Teamsで教員・履修生のグループを作った。	教育の質の維持。	対面形式の授業であるが、感染状況の悪化に備えるためTeams上で授業用のグループを作成して備えた。結果として、後期は登校禁止期間が生じなかったため、Teamsは使用しなかったが、今後も万が一の備えとしてオンライン上のサポート体制を継続したい。オンラインサービスを活用した発表資料の共有・研究発表(パワーポイント)画面の共有など、授業は対面であっても有効である。
デザイン	1 専攻会議の実施	原則毎週水曜日の16:00より2時間30分前後実施している。FD関連の議題もその中で随時検討を行いデザイン専攻内教員間、教育研究指導員間で検討確認を行い情報共有を図った。 1.各教員から授業の実施状況や報告、問題点を抽出し改善を図った。 2.学生の受講状況や受講姿勢の確認及び情報共有を随時行い、より良い授業を行えるよう検討した。 3.関連科目の授業状況についても随時確認し、改善策や問題点を共有し実行した。	学生の授業受講状況や制作などの進捗状況や環境を教員間で共有・確認し、より良い授業が行われるよう教員全員の意思疎通を図り、授業や学生の状況を把握できるようにする。	実技カリキュラム、関連科目の実施全てにおいて随時検討を重ね、状況に合った授業運営を行う事を確認した。成績や学生の授業内容や受講状況などの把握を教員間でを行い、さらなるカリキュラムの改善に向けて継続的に協議検討を行っている。 本年度は新型コロナウイルス事象のため、より慎重に教室アトリエの使用環境に留意した。
	2 新カリキュラムの実施	領域を撤廃し新たにプロジェクト課題を発定させ、より社会のニーズや問題点を解決するための具体的なプロジェクトを発定させた。また、メディア映像専攻の新専攻が新たに発定する事によるデザイン専攻の再構築や新たなカリキュラムの検討を随時行っている。	社会や時代の変化に柔軟かつ強力で課題や問題解決に対応できる人材の育成を目的とし、基礎から応用に至るデザイン実技と理論構築の力を養い、より専門的かつ実践的な課題を行う中で、様々な状況に対応できる能力を育てていく。	新型コロナウイルスの感染拡大状況により、スタート時には混乱もあった。従来までの対面授業が主となる実技授業などでは教員側が想定した授業を十分に行えない状況はあったと思う。しかしながら、学生、教員間で一丸となって感染対策を行いオンライン授業などの積極的な対応策の導入などを試みた。全世界的な危機的状況の中で、安全な範囲の中で出来る限りの対面授業を行うなど、一応の成果を導き出せたと考える。
	3 就職・企業説明会の実施	例年のように就活を終えた学生との座談会や学務課との就職支援との連携を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染の蔓延により各企業もオンラインでの企業説明会などを実施する企業が多数あった。通常の対面での説明会がかなり自粛・制限された。学生も状況に沿ってかなりオンライン説明会などに慣れてきて柔軟に対応する姿が見受けられた。	社会の中で各学生のデザイン能力や人間性を活かし役立つ人材になれるよう、学生の個性や能力を見極め、その学生に適した企業、また社会や企業が求める人材との合致を検討し模索する。	本年度は新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、各企業もオンラインでの企業説明会などを実施するなど、いまだかつて無い試行をする企業が多数あった。学生も戸惑いながらも状況に沿ってかなりオンラインによる会社説明会などに不慣れながらも柔軟に対応する学生も多く見受けられた。
	4 授業評価アンケートの実施	学生からの率直な授業評価や感想を得る為、前期、後期それぞれ実技授業、関連科目授業の各授業の事業評価アンケートを行った。	客観的で率直な学生からの授業に対する感想や評価を得ることにより、今後の授業運営や効果的な授業計画に役立てる事を目的とする。	今年度は前代未聞の新型コロナウイルス感染の蔓延の為、通常の授業とはかなり異なる授業が行われた。教員、学生、非常勤講師間で綿密な計画をたて、オンライン授業を行うなどの手探りの授業運営が行なわれた。授業評価アンケートでは概ね授業そのものに対する評価は一定の好評価があったが、感染対策としての換気を十分に行った為、特に後期は冬場である事もあり、教室がかなり寒くなり、授業どころでは無いという自由記述が目立った。授業評価アンケート結果報告を参照。
陶磁	1 専攻会議の実施	原則毎週木曜日の9時より、実施された。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図った。 1.授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 2.学生の受講姿勢や状況について確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 3.関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 4.非常勤講師の授業内容や授業時間数の精査。 5.各参加委員会からの報告	コロナ禍での授業運営の在り方の検討。学生の受講意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認。教員全員による学生状況の把握。大学の教育環境の整備に努める。入試内容の検討。カリキュラムの改善。	カリキュラム全体の流れや達成目標について検討を重ねた。特に、基礎のカリキュラムは、専門領域に別れた後にも大きな影響があるため、内容について継続的に協議して行くこととした。2021年度開始の3専門領域の指導のあり方を協議。総合選抜入試についてのシミュレーション。オープンキャンパスの魅力のためにWebでの発信内容を検討した。
	2 授業評価アンケートの実施	各種授業評価アンケートを行った。	学生から率直な授業評価や感想を得て、今後の効果的な授業運営やカリキュラム改善に生かすことを目的としている。	達成目標について検討を行い、学生の理解力によって次年度のカリキュラムに反映していくこととした。
	3 教育環境の改善	2018年度から準備を進めてきた1・2年基礎教育と3年以上の専門領域教育に関する全面的なカリキュラム改変内容を具体化し確定した。2021年度から開始する3専門領域の教育目標、授業案を検討。3専門コース(陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース)の各2名の担当がカリキュラムを立案した。それに伴い非常勤講師による授業時間を有効に活用するため、コマ数配分や人選についても見直しを行った。	現行の国内外の陶芸を取り巻く環境に即した教育、学生が必要とする授業内容の提供を図る。	新1年生におけるカリキュラムの運用1年目。新基礎教育カリキュラムを確認しながら、随時状況の把握と情報交換を行い、1・2年基礎教育の改組完成を目指す。2021年度からの大幅改組に向けて継続的に意見交換を行い、学生により良い教育を提供できるよう引き続き努力する。
	4 工房環境の改善	2021年度から始動する3専門領域のために、旧1・2年基礎実習室を分割し、新しい専門領域となる芸術表現コースのための制作場を整備した。	新専門領域の制作環境の整備	安全な工房運用に欠かせない制作場の整備に、教員、指導員が連携して積極的に取り組んだ

音樂學部・音樂研究科

音楽				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
音楽学	1 部会の実施	2020年度はコロナ禍のため、TeamsやZoomなどオンラインも併用しながら行った。	学生や授業に関して情報交換を行ない、コース内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の問題について教員間で情報を共有し、相談して指導方法を見直したり、授業のやり方を変えたりすることができた。
	2 音楽学コース独自の授業アンケート実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほかに、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを実施している科目がある。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	毎年独自のアンケートを実施している「西洋音楽史概説AB」および「音楽学概説」については、今年度はUNIPAIによるオンデマンド方式の授業になったため、その機能を使って学生からの質問や要望に応えた。
	3 音楽学総合セミナーの実施	この授業は「音楽学コアキアム」という名称の学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめぐって開設された授業を母体として作られたもので、音楽学コースの学部生から大学院博士課程まで学生全員と教員全員が参加する授業である。内容は音楽学コースの教員による研究発表、学生による研究発表、ゲストスピーカーによる研究発表から成り、まさにFDの理念に沿った授業である。	国内外の多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生がお互いに切磋琢磨するため。	2020年度はコロナ禍のため、国外からのゲストスピーカーの来日が不可能になるなど、総合セミナーは縮小せざるを得なかった。学生による複数回の研究発表のほか、11月に2回講座(井上さつき教授による「1920年代の日本楽器製造(現ヤマハ)について」、小林英樹名誉教授(美術・油画)「セザンヌが求め続けたもの」)が行われた。
	4 特別講座の開催	特別講座を開催し、公開している。	学生および地域の皆さんに、すぐれたゲストスピーカーによる最先端の知や芸術の世界に触れてもらうため。	2020年度はベートーヴェン研究家の平野昭氏(静岡文化芸術大学名誉教授)をお招きして実施した。テーマは「ベートーヴェン生誕250年～孤高様式の特徴:1818～22年のピアノ作品～」であった(コロナ禍のため学外公開せず)。
	5 複数教員による論文指導	音楽学を専門とする学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集団的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	卒業論文4本と修士論文が1本提出された。
	6 学生からの相談への対応、指導の実施	オフィスアワー時間以外にも、学生からの相談には柔軟に対応し、きめ細かい指導を行っている。コロナ禍での自宅待機や通学授業等で過度なストレスがかかっているかを確認し、学生に聞くようにした。	学生が充実した大学生活を送ることができるようにする。	学生が、心身の健康を保ち、勉学にさらにいそむことに役立った。
	7 コース概要の刊行	「愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース概要」を2006年から刊行し、その年度の卒業論文、修士論文、博士論文の題目と要旨を掲載している。	学生の学業の成果を広く知らせるため。	学生にとって励みになると同時に、下級生が研究対象を決める際の参考にもなり、外部に対しては音楽学コースの広報活動にもなっている。
音楽	1 専攻部会の開催	毎月2～3回、1回あたり2時間程度実施。参加者は専任教員6名。 主な議題は以下のとおり。 1. 各種委員会より依頼のあった懸案事項の検討 2. 専攻内での懸案事項の検討 3. 専攻の授業と行事の実施に関する事項の検討 4. 個々の学生に関する情報の共有と対応	・大学および専攻の運営に関わる問題を審議し、声楽専攻としての方針を決定する。 ・個々の学生に関する情報を部会内で共有し、対応が必要な場合にはこれを速やかに行う。	・本年度における、大学および専攻運営上の最大の懸案は、専任教員2名の新規採用に関する事項であったが、次年度以降の指導体制を論議し、これに沿った採用人事を無事に行うことができた。 ・各授業の進捗状況を随時把握し、円滑な授業展開が可能となった。
	2 授業評価アンケートの実施	前年ならびに後年の終わりに、クラス授業を中心に授業評価アンケートを実施。	学生から怠慢のない評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行う。	どの科目も概ね学生たちは積極的に取り組んだと回答しており、授業の内容にも関心があったことがうかがえる。自由記述にさらなる改善に向けての参考となる意見が見られた。
	3 舞台美術会議の実施(学内外のコラボレーション)	大学オペラ公演に向けて、大学院オペラ担当教員(演出家を含む)ならびに舞台美術担当教員(美術学部教員)、外部関係者による会議を実施。本年度は6回の会議を行った。	大学オペラ公演の具体的な舞台美術プランを決定する。	本年度の演目、モーツァルト作曲のオペラ(コジ・ファン・トゥッテ)は、コロナ禍の中での大変な公演であったが、キャスト同士のディスタンスをとった演出とそれに答えた舞台美術の完成度で魅力的な舞台となった。
	4 舞台衣装制作での協力(他大学とのコラボレーション)	学部4年の「オペラ研究」の授業において、名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科と協力、学芸大学側は舞台衣装を制作、本学では出来上がった衣装を着けての試演を上演を行っている。	二大学間での協力により、双方の授業に役立てる。	双方が実験的な授業を行うために、非常に理想的で、きわめて貴重な機会であり、今後も継続がぜひ望まれる。先の授業アンケートでも「衣装が豪華だった」との学生の声があった。
	5 特別講座の実施	年1回特別講座を実施。学内外の講師によって、演奏会、講演、公開レクチャーを行う。本年度は非常勤講師、馬原裕子氏(ソプラノ)による、レクチャー・コンサートを、2021年1月13日(水)に、室内楽ホールにおいて開催した。	国内外で活躍する現役歌手の演奏と、その体験談を聴き、学生たちの今後に役立てる。	馬原氏のすばらしい演奏に触れ、また日本歌曲の演奏について実践的でわかりやすいレクチャーは、学生に大変好評であった。学生からは、「このような素晴らしい演奏会が無料で聞けるとは」などの声もあり、みな良い刺激を受けたものと思われる。
弦楽器	項目名(会議や委員会の実施等)	項目にある活動の概要について ・実施時間 ・実施方法 ・内容	項目にある活動の実施目的を簡潔に記入してください。	実施した結果や、結果を踏まえた改善点、今後の取り組み等の記入をお願いします。
	1 個人レッスン実技試験 室内楽試験 修了演奏	弦楽器コースでは、入学時及び各学年末に師事したい教員の希望を取った上で担当を決定し、週1回マンツーマンで丁寧に指導を行っている。 演奏による試験は、実技(学部2年生以上公開)及び室内楽(全学年公開)を前・後期各1回ずつ行っており、外国人客員教授を含む弦楽器コース専任教員全員と多数の非常勤講師が共に学生の演奏を聴き、採点をを行う。試験を公開している利点は、試験官以外に多数の学生(聴衆)がいる前で演奏する事で、より緊張感を持つことが出来る点、他の学生の演奏を聴くことで多くを学べる点などが挙げられる。	指導を行うアンサンブル授業、公開講座や特別授業、半期毎の授業アンケート、弦部会等、全てをFD活動としてとらえている。 演奏を聴けば、その学生が担当教員からどのような指導を受けているかが分かる。又、担当以外の教員による採点や試験後の講評によって、普段のレッスンとは異なる視点からの意見や採点等を知る事もでき、学生自身は勿論、担当教員にとっても大変勉強になっている。	入学時より卒業・修了まで、学生一人一人が成長していく様子を弦楽器専任教員全員で見守り、伸び悩む学生に対しては、担当外であっても必要に応じて助言や指導を行っている。教員全員が各学生の氏名やその演奏を全て把握しているのは、規模の大きい本学ならではの利点であり、強みであると言える。 本年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、前期実技試験の課題は無伴奏曲とし(伴奏者との接触を避ける為)、卒業試験及び修了演奏いずれも室内楽Hを使用し、年間を通して全て非公開とせざるを得なかった。
	2 アンサンブル系授業	「室内楽」「弦楽合奏」「オーケストラ」等のアンサンブル授業に於いては、効果的に授業を行う為、下記の様な体制で指導を行っている。 (室内楽) * 室内楽学部/1・2年次必修 3・4年次選択 * 弦楽合奏同上 * オーケストラ学部/2年次以上必修 * 修了課程/選択 (弦楽合奏) 室内楽を大型にしたような緻密かつ音楽的なアンサンブルを目指し、複数の教員が分奏を担当、合奏では指揮者以外の教員も適宜アイデアを出し、助言を行いながら指導を行っている。R2年度は、ピアノコース武内准教授にノリリストとしてご参加頂き、学生と共演する形で作品研究も有り、その成果を定期演奏会で披露した(下記・授業評価アンケートの項参照)。 (オーケストラ) 国内外の第一線で活躍する指揮者のもとで行われる、プロのオーケストラ同様のリハーサルが授業の基本であり、そこへ経験豊かな弦楽器・管打楽器教員が指導スタッフとして加わっている(下記・授業評価アンケートの項参照)。	複数の教員で授業を行う科目では、学生への利点は勿論のこと、教員同士も互いの指導方法やその成果を感じる事が出来、自身の授業法改善の参考になっている。	弦楽器コースではアンサンブル教育に非常に力を入れているが、室内楽・弦楽合奏共に選択履修となる3年次以降も受講希望者は非常に多い。 学年が進むにつれ、学生達のアンサンブル能力は明らかに向上し、目に見えて成長していくことから、現在の指導方法が大変効果的である事が分かる。 授業の成果発表として、本年度は下記の演奏会を行った。コロナ禍の影響で、残念ながら春季オーケストラ演奏会等2公演が中止となったが、実施した演奏会はいずれも非常に高い評価を得ており、今後も継続して予定である。 尚、オーケストラの2公演については、演奏会後に動画配信も行った。 (室内楽) 2021年2月24日「第18回室内楽の夕べ」(電気文化会館ザ・コンサートホール) (弦楽合奏) 2021年1月13日「第15回定期演奏会」(三井住友海上しらかわホール) (オーケストラ) 2020年9月22日「特別演奏会」(美楽堂) 2020年11月27日「第31回定期演奏会」(愛知県芸術劇場コンサートホール)

音楽					
専攻コース	項目	概要	目的	結果	
弦楽器	3 外国人客員教授の招聘、学外講師による講座等	R2年度は、昨年度に続き長期外国人客員教授としてF.アコステイローニ氏(Vn.)にご指導頂き、同氏には学部定期演奏会に於いてソロ演奏もお願いした。 コロナ禍の影響で、アーティストインレジデンス枠での外国人演奏家の招聘は叶わなかったが、来年度以降、状況を見ながら再開していく予定である。	通常、指導を受けている教員以外の演奏家によるレッスンを受講・聴講することで、別の視点から多くを学ぶことが出来る。	左記の他、ルドヴィート・カントラ非常勤講師によるチェロ公開レッスン、ニューヨークフィルCb.首席奏者・岡本哲氏による特別レッスン等、公開講座や特別授業を行った。 特別講師による指導や演奏を聴講し、適宜質疑応答等を行うことは、受講した学生自身は勿論、聴講している学生や教員にとっても大変勉強になり、次年度以降も引き続き行っていく予定である。	
	4 専攻会議	教員間の情報共有や授業改善、コロナ感染予防対策等を議題とし、前・後期合わせて20回以上の部会を行った。更に、メールでも頻りに連絡を取り合い、報告事項の共有や授業を円滑且つ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。	専任教員が、全学生の勉強・生活の両面について現状を把握できるようにする。	全学生の受講状況や生活面に関する情報を共有し、担任が否かに関わらなければならないに応じて学生の相談に応じる等、全教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしながら指導に当たっている。 近年、SNSの影響等による人間関係ストレスから精神的にバランスを崩す学生が増える傾向にあり、そこへコロナ禍も加わり、授業履修にも影響が出ているケースが見えられ、この点に於いてこれからは益々のケアが不可欠になると思われる。	
	5 授業評価アンケートの実施	前期/弦楽合奏、後期/オーケストラ授業について、UNIPAシステムを利用したオンラインアンケートを実施した。 回答率は前期/65.3%、後期/62.9%であった。	弦楽器コースが特に力を入れているアンサンブル教育が、学生にとって望ましい形で進められているかどうかを見る。	【前期/弦楽合奏】 出席率は「100%出席」が81%、「90%出席」が18%と非常に高い数値を示した。「意欲的に取り組んだか」の問いに対し、100%が「強くそう思う」或いは「ややそう思う」と回答。「専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価する」とい授業だとと思うか」に対しては97%が「強くそう思う」或いは「ややそう思う」と回答した。 「教員とコミュニケーションはとれていたか」「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」「授業時間は十分と感じたか」「教員の話し方、話すスピードは適切か」等の問いには、やや評価が分かれたが、総じてこの授業をとても有意義であると感じ、高く評価している学生が多数である事が伺える結果となった。 〈自由記述〉 ・弦楽で合わせる楽しさは計り知れない。 ・先輩の合奏を見学する機会を頂けたので勉強になった。 ・はじめてワイオラを弾き、身体の動かし範囲が広がった気がする。 ・サークルレーターの作動音や、マスクによって先生の発言が聞こえない事があった。マイクを使うなどして聞き逃しが起こらないようにしていきたい。 ・後ろの方の席に座っていると先生の声が聞こえない時があり、理解するの時間がかった。 ・もう少し範囲や目標を明確に計画したものを出してほしい。 ・パート練習を行う部屋が狭く、1人ひとりの間があまり距離を取れていない気がして少し怖い。 担当教員は常に創意工夫を凝らし、より良い授業を目指しているが、学生のアンサンブル能力向上に向けて更に効果的な授業となるよう、今後も教員間の連携をより一層深めながら指導を行ってきたい。 来年度も引き続き新型コロナウイルス感染予防対策が不可欠であると思われる、自由記述での要望も踏まえて改善していく。	
					【後期/オーケストラ】 出席率は「100%出席」「90%出席」を合わせて95%、「専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価する」とい授業だとと思うか」の問いに対しては100%が「強くそう思う」或いは「ややそう思う」と回答。「意欲的に取り組んだか」の問いにも「強くそう思う」或いは「ややそう思う」が98%であった。 「教員とコミュニケーションはとれていたか」「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」「授業時間は十分と感じたか」「教員の話し方、話すスピードは適切か」等の問いには、前期の弦楽同様、やや評価が分かれた。 弦楽合奏・オーケストラ共にアンサンブル授業である為、マンツーマンで行う個人レッスンと異なり、履修者全員が納得のいく形で授業を進めることは容易ではないが、それでも大多数の学生にとって、非常に充実した授業が行われていると言える結果であった。 〈自由記述〉 ・第一線で活躍されている指導者の方から直接ご指導頂き、とても勉強になった。 ・先輩の練習や演奏ができるのはとても貴重な経験だった。先生が参加して下さったことも大変刺激的だった。演奏中だけでなく、学生間の会話や先生の指導などから生きた学びを享受することができ、助かった。スティーブ先生の指導は凄かった。 ・授業前におっしゃっている注意事項などが後ろの席に座っていると殆ど聞こえないので、その時もマイクを使って欲しい。 ・席次は、前年度のオーケストラスタディの結果で作ってほしい。特定の人だけがトップをやり続けたいようにしてほしい。 ・たくさんの本番を経験したい。人前で弾く機会はとても貴重であり、大きな学びにつながると思う。 ・奏楽が暗く、楽譜が見にくい。 ・夏は暑く冬は寒い。楽器が割れる、剥がれるのがすごくストレスになった。 ・席を移動し色々な席で弾くことで勉強する、ということを行なっていただき、徹底されていない対策の中、譜面台や椅子を消毒などに使い回すことなどに不安を感じた。 ・このような状況下においても、換気の徹底等の対策を講じることで、私たち学生がオーケストラの授業を受けられるような環境を整えていただき、深く感謝している。
					これらの活動により、教員と学生間には勿論、教員同士も互いに良い刺激を受け、音楽界の情報交換も出来る等、広義的に授業での指導力向上に繋がっていると確信している。
管打楽器	6 愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団 その他	2008年に専任教員5人で「愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団」を結成以来、積極的に活動を行っている。2年前のブームス室内楽全曲演奏プロジェクト終了後も、客員教授や招聘アーティストを交えての演奏会、5月に毎年行っているパッパ公演等、大変意欲的に演奏活動を行い毎回好評を頂いているが、今年度はコロナ禍を福み、全ての演奏会が中止或いは次年度に延期となった。	教員が音楽に取り組む姿勢や、様々な角度から学生に示す。綿密なリハーサルを行い、本番で演奏する姿を間近で見せる事により、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対するプロ意識等を学生に教えることが出来る。更に、学生との共演も大変有効な指導手段の一つと考えており、来年度以降も積極的に続けていく予定である。		
	1 管打楽器の部会	定期的に管打楽器部会を開催しています。時によって変わりますが、本曜日12時から14時半までが多いです。今年度はコロナの影響でオンライン部会も行いました。 ①各委員会の情報共有など部会としての意見を語る。 ②木管楽器、金管楽器、打楽器の学生のレベルなど相性を考えながらオーケストラ、ウィンドオーケストラの出演者を決める。 ③苦労をしようとする学生と面談する。 ④コロナ対策に関して話し合う。	コース内のコミュニケーションを効率良くするために定期的に部会をしています。お互いの意見を聞き合ったり、思っている事を自由に出来るような環境を作る事が目的です。	5人の教員の一人一人の意見が大事にされて、明るい雰囲気の中で運営と研究も出来ていると思います。	
	2 非常勤講師、授業の内容	管打楽器コースには13種類の専攻楽器あります。実技レッスンの為に非常勤講師を沢山呼ばないとなりません。各楽器のレベル、受験生の人数、学生のメンタルヘルスを意識して人事を調整する必要があります。5人の専任で相談しながら人事のやり取りを毎年調整しています。	実技レッスンの担当教員と学生の相性と受講状況を把握して、複数の先生がいっしょに楽器になるべく良いと思うマッチングを設定しています。FDアンケートを参考にして、コース授業のカリキュラム、人事を調整しています。	コロナの影響も大きいと思いますが、ある2種類の専攻楽器生に精神的に悩んでいる学生が多くなってきているため、人事交代を考えています。	
	3 卒業、修了後の進路	卒業見込みの4年生、修了見込みの大学院2年生の進路予定を把握しています。学生のレベル、目標に合わせて卒業後、修了後の面談を行っています。	音楽の世界で生きていく事は大変難しいです。全ての学生が人生で成功出来るように、一人一人に合わせて一番良い道を提案していきたいと思っています。	大学、大学院の卒業時に、殆どの学生の進路がはっきり決まっています。大学院に残ったり(学部卒業生)、勉強してきた楽器で音楽隊入ったり、一般就職して学生も多いです。	
4 アンケートの実施	オンラインで授業ができるようにするために約5回アンケートを取りました。アンサンブル系の授業アンケートを取りました。オンライン座学の授業アンケートを取りました。	音出し出来るスペース、インターネットのアクセス、タブレットかパソコンの全てが無いとオンラインレッスン出来ません。オンラインレッスン、授業を開催する為、学生の状況を把握する必要があります。はじめての事なので、実施されたオンライン授業に問題無いか調べる必要がありました。	インターネットのアンケート取ったお陰でオンラインレッスンが出来ました。		

第2章 授業評価アンケート

令和2年度 授業評価アンケート

1. はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（FD）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。

平成21年度から、FD専門委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の2種類のアンケートで実施しています。

この2種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

2. アンケートの実施

前期と後期の年2回実施をしました。

前期は、令和2年7月13日（月）から7月31日（金）の3週間、後期は令和3年1月12日（火）から2月12日（金）の5週間の期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、大学の教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORT のアンケート機能にて実施し、学生が自由に回答できるように配慮しています。

アンケート実施対象の授業は、集中講義と履修登録者5名以下を除くすべての授業（ただし、音楽学部の個人レッスンは除く。また、大学院は、担当教員の希望により実施）から変更し、FD委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択しました。これは、各専攻でアンケートを必要とする授業にシぼることを目的とするだけでなく、アンケート実施が困難な授業を事前に把握することが可能となりました。実施が困難な授業とは、個人指導の形態をとっている授業やクラス分けにより少人数で行っている授業などがあります。

このように実施方法は、FD専門委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

3. アンケートの報告

アンケートは教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORT を通して学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。本学専任教員は、集計結果をもとにFD報告書にて専攻の授業評価アンケート全体の報告を作成しています。

授業評価アンケート（講義）

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

- ・60%以下
- ・70%くらい
- ・80%くらい
- ・90%くらい
- ・100%

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

- ・ほぼ時間通り
- ・延長することが多い
- ・開始が遅いことが多い
- ・早く終わることが多い
- ・よくわからない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教室・設備については適切でしたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。(無回答可)

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。(無回答可)

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

授業評価アンケート（実習）

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

- ・ 60%以下
- ・ 70%くらい
- ・ 80%くらい
- ・ 90%くらい
- ・ 100%

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

- ・ まったくそう思わない
- ・ あまりそう思わない
- ・ どちらともいえない
- ・ ややそう思う
- ・ 強くそう思う

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

- ・ まったくそう思わない
- ・ あまりそう思わない
- ・ どちらともいえない
- ・ ややそう思う
- ・ 強くそう思う

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

- ・ まったくそう思わない
- ・ あまりそう思わない
- ・ どちらともいえない
- ・ ややそう思う
- ・ 強くそう思う

授業時間は十分だと感じましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受ける事ができましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

教室・設備については適切でしたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

- ・まったくそう思わない
- ・あまりそう思わない
- ・どちらともいえない
- ・ややそう思う
- ・強くそう思う

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。(無回答可)

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。(無回答可)

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

2020年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	合計	講義/実技
作曲・学部	作曲理論ⅢA		久留 智之	7	実習
作曲・学部	作曲理論ⅠA		山本 裕之	8	実習
声楽・大学院	重唱		辻 博之	14	実習
声楽・学部	オペラ重唱A		初鹿野 剛	30	実習
ピアノ・学部	伴奏法・器楽曲A		北住 淳	23	実習
ピアノ・学部	ピアノ合奏A		掛谷 勇三	24	実習
弦・学部	弦楽合奏ⅠA～ⅣA、A		弦楽器コース教員	49	実習
管打・学部	管打学基礎ⅡA		杉浦 邦弘	22	実習
管打・学部	管打学基礎ⅠA		井上 圭	24	実習

2020年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	合計	講義/実技
作曲・学部	和声ⅠB		久留 智之	19	実習
作曲・学部	和声ⅠB		遠藤 秀安	25	実習
作曲・学部	和声ⅠB		山本 裕之	24	実習
作曲・学部	和声ⅠB		鈴木 宏司	20	実習
作曲・学部	和声ⅡB		成木 理香	23	実習
作曲・学部	和声ⅡB		遠藤 秀安	21	実習
作曲・学部	和声ⅡB		山本 裕之	16	実習
作曲・学部	和声ⅡB		鈴木 宏司	23	実習
声楽・学部	オペラ基礎B		磯田 有香	29	実習
声楽・学部	合唱ⅠB～ⅢB	(女)	永 ひろこ	71	実習
声楽・学部	合唱ⅠB～ⅢB、重唱B	(男)	佐藤 正浩	46	実習
声楽・学部	合唱B		永 ひろこ	62	実習
声楽・学部	オペラ研究B		森川 栄子	28	実習
声楽・学部	音楽芸術言語(伊語)ⅠB		ロムアルド・パローネ	13	講義
声楽・学部	音楽芸術言語(独語)ⅠB		マーティン・ヴィルヘルム・ニース	12	講義
声楽・大学院	オペラ総合演習2		声楽領域教員	15	実習
声楽・大学院	特殊研究(複合領域3)		森川 栄子	14	実習
ピアノ・学部	ピアノ合奏B		掛谷 勇三	24	実習
ピアノ・学部	伴奏法・歌曲B		松川 儒	25	実習
ピアノ・学部	伴奏法・器楽曲B		武内 俊之	23	実習
弦・学部	オーケストラⅠB～ⅣB、B	(弦楽器)	弦楽器コース教員	70	実習
管打・学部	管楽合奏ⅠB～ⅣB、B		矢澤 定明	98	実習

2020年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	合計	講義/実技
油画	油画実技Ⅰ	(前期)	油画専攻教員	25	実習
	油画実技Ⅱ	(前期)	油画専攻教員	26	実習
	油画実技Ⅲ	(前期)	油画専攻教員	28	実習
	油画実技Ⅳ	(前期)	油画専攻教員	24	実習
	油画特別演習Ⅰ	(前期)	油画専攻教員	25	実習
	油画特別演習Ⅱ	(前期)	油画専攻教員	26	実習
	油画特別演習Ⅲ	(前期)	油画専攻教員	28	実習
	油画特別演習Ⅳ	(前期)	油画専攻教員	24	実習
彫刻	彫刻実技ⅠA	(金属)	村尾 里奈	10	実習
	彫刻実技ⅠA	(塑造)	竹内 孝和	10	実習
	彫刻実技Ⅱ	(造形)	高橋 伸行	11	実習
	彫刻実技Ⅱ	(塑造)	森北 伸	11	実習
	彫刻実技Ⅲ		神田 每実	2	実習
	彫刻実技Ⅲ		高橋 伸行	2	実習
	彫刻実技Ⅲ		村尾 里奈	5	実習
	彫刻実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		彫刻専攻教員	9	実習
デザイン	デザイン基礎実技A		春田 登紀雄	35	実習
陶磁	陶磁実技ⅠA		佐藤 文子	10	実習

2020年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	合計	講義/実習
日本画	日本画実技ⅠB		日本画専攻教員	12	実習
	日本画実技ⅡB		日本画専攻教員	12	実習
	日本画実技ⅢB		日本画専攻教員	11	実習
	日本画実技ⅣB(卒業制作を含む。)		日本画専攻教員	11	実習
油画	油画実技Ⅰ		油画専攻教員	25	実習
	油画実技Ⅱ		油画専攻教員	26	実習
	油画実技Ⅲ		油画専攻教員	28	実習
	油画実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		油画専攻教員	24	実習
	油画特別演習Ⅰ		油画専攻教員	25	実習
	油画特別演習Ⅱ		油画専攻教員	26	実習
	油画特別演習Ⅲ		油画専攻教員	28	実習
彫刻	彫刻実技ⅠB		彫刻専攻教員	10	実習
	彫刻実技Ⅱ		彫刻専攻教員	11	実習
	彫刻実技Ⅲ		彫刻専攻教員	9	実習
	彫刻実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		彫刻専攻教員	9	実習
デザイン	デザイン基礎実技B		デザイン専攻教員	35	実習
	デザイン・工芸論B		デザイン専攻教員	46	講義
	デザイン特講B		森 真弓	35	講義
	デザイン文化史特講		関口 敦仁	34	講義
	Webデザイン基礎	(隔週)	森 真弓	32	実習
	立体空間ゼミ	(隔週)	水津 功	20	実習
陶磁	陶磁実技ⅠB		陶磁専攻教員	10	実習
	陶磁実技Ⅱ		陶磁専攻教員	10	実習
	陶磁実技Ⅲ		陶磁専攻教員	10	実習
	陶磁実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		陶磁専攻教員	11	実習
関連	デザイン史B	(隔週)	森 仁史	43	講義
	図学/図学及び遠近法		大島 淳子	51	講義

2020年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名
前期はアンケート対象なし		

2020年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	講義/実技
外国文学B		高田 映介	53	講義
心理学B		三宮 敦生	78	講義
数学B		加納 成男	21	講義
身体運動演習 I A~ II B		幸田 律	11	実習
身体運動演習 I A~ II B		武山 祐樹	34	実習
身体運動演習 I A~ II B		山本 祐実	13	実習
身体運動演習 I A~ II B		小野 昌子	19	実習
スポーツ・健康科学B		石垣 享	12	実習
自由研究ゼミナール I		石垣 享	14	講義
自由研究ゼミナール II		石垣 享	23	講義
異文化コミュニケーションB		井上 彩	11	講義
コンピューター基礎 II b		清道 正嗣	21	講義
コンピューター基礎 II b		鈴木 剛	34	講義
基本体育B		石垣 享	8	実習
基本体育B		石垣 享	20	実習
基本体育B		石垣 享	26	実習
基礎生物学B		清道 正嗣	11	講義
コンピューター基礎 I		大嶽 麻里子	34	講義
コンピューター基礎 I		大嶽 麻里子	31	講義
コンピューター基礎 II c		清道 正嗣	32	講義
英語初級 I B		ナイレ・アン・キーナン	28	講義
英語初級 I B		ナイレ・アン・キーナン	22	講義
英語初級 II B		井上 彩	23	講義
英語初級 II B		中根 多恵	23	講義
英語初級 II B		井上 彩	16	講義
英語中級 I B		井上 彩	23	講義
英語中級 I B		井上 彩	25	講義
英語中級 I B		中根 多恵	28	講義
ドイツ語初級 I B		大塚 直	51	講義
ドイツ語初級 I B		橋本 亜季	59	講義
ドイツ語初級 II B		大塚 直	53	講義
ドイツ語初級 II B		山本 弘之	49	講義
ドイツ語中級 I B		大塚 直	32	講義
ドイツ語中級 II B		シュトラール ヤン ゲリット	11	講義
ドイツ語上級 I B		大塚 直	14	講義
フランス語初級 I B		フロラン・ペリエ	24	講義
フランス語初級 II B		フロリアン・エルゴット	14	講義
フランス語初級 II B		フロリアン・エルゴット	19	講義
イタリア語初級 I B	(音楽)	ロムアルド・パローネ	26	講義
イタリア語初級 I B	(美術)	水野 留規	10	講義

2020年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	講義/実技
イタリア語初級ⅡB	(音楽)	パペッテ・マシミアーノ	34	講義
イタリア語初級ⅡB	(美術)	ロムアルド・パローネ	14	講義
イタリア語中級ⅡB		パペッテ・マシミアーノ	24	講義
イタリア語上級ⅠB		水野 留規	11	講義
美術科教育法A		藤江 充	39	講義
音楽科教育法A		柴田 篤志	82	講義
音楽科教育法C		柴田 篤志	15	講義
教育相談	(美術・ピアノ)	日下 美輝子	50	講義
生涯学習概論		松野 修	23	講義
博物館経営論		木本 文平	20	講義
博物館展示論		北谷 正雄	26	講義